

Shift-Persist Strategy は社会内変動を促すのか

○李 受珉¹・中島 健一郎¹
(¹広島大学大学院教育学研究科)

問題

Shift-Persist Strategy とは、困難な出来事に直面した時に伴う種々な逆境を自身が成長するチャンスだと捉え直し(= Shifting), 自身の将来が明るいものだと考え、希望を持ち続ける(=Persisting)という認知・思考スタイルである。

先行研究では、Shift-Persist Strategy を身につけている人々は、たとえ SES が低くても SES が高い環境で育った人々と同じ水準の環境適応を示すことが示されている(Chen & Miller, 2012)。例えば、SES の低い個人において、Shifting と Persisting の両方が高い場合に、身体的健康(Chen et al., 2015)や自己効力感(Nakashima & Lee, 2016)が顕著に高まることが明らかにされている。また、Tan and Kraus(2015)は、階層の固定化や低階層の人々が抱える心身の不調の背景に「あきらめ」があることを示唆している。

Shift-Persist Strategy が SES の低い個人の「生きる力」であるならば、Shift-Persist Strategy を用いることで、この「あきらめ」が抑えられ、階層の固定化が維持されず、社会人になったときの社会経済的状況が改善されると考えられる。

以上の点を踏まえて、本研究では SES の低い環境で育った人々でも、Shift-Persist Strategy を用いることで、低階層から高階層への移動(=jump up effect), すなわち社会内変動が見られると予測し、検討する。

方法

調査参加者 社会人調査モニター662名(男性 333名, 女性 329名, 平均年齢 38.5歳)。

手続き 調査は 2016 年 12 月に行った。インターネット調査会社(Fast ask)のオンラインモニターに調査協力依頼のメールを配信した。参加に同意した調査モニターが以下の尺度に回答した。

使用尺度 (1)幼少期の主観的 SES (Nakashima & Yanagisawa, 2015; 3 項目 7 件法, $\alpha=.86$), (2)Shift-Persist Strategy の日本語版 (Chen et al., 2015)の尺度に基づき作成(14 項目 4 件法[Shift: $\alpha=.85$, Persist: $\alpha=.82$]), (3)客観的 SES (収入; 1 項目 14 件法), (4)学歴 (1 項目 10 件法), (5)仕事満足度 (JGSS-2009

ライフコース調査を参考に作成; 1 項目 5 件法) の計 5 つの尺度を使用した。

結果

各尺度の因子構造・信頼性に問題がないことを確認した後、本研究の予測を検討するために、収入と学歴、仕事満足度を目的変数、幼少期の SES・Shifting・Persisting を説明変数、年齢を統制変数とする階層的重回帰分析を行った。ステップ 1 に年齢、ステップ 2 に各変数の主効果、ステップ 3 に 2 要因交互作用項、ステップ 4 に 3 要因の交互作用項を投入した。この際、年齢を除いて因子得点を使用し、説明変数の中心化を行った。

収入: 「収入なし」から「1000 万円以上」と答えた回答者を基準とする順序ロジスティック回帰分析を行った。「わからない」「答えたくない」と回答した人は欠損値扱いとした。

学歴: 「中学校卒/高校卒」「専門学校卒/高等専修学校卒/高等専門学校卒/短期大学卒」「大学卒/大学院卒」と 3 分類し、順序ロジスティック回帰分析を行った。「その他」「答えたくない」と回答した人は欠損値扱いとした。

分析の結果、収入と学歴いずれにおいても、幼少期の SES の主効果のみが有意であった ($\beta=.23, p < .05, \beta=.24, p < .01$)。

仕事満足度においては、幼少期の SES と Persisting の主効果が有意であった (幼少期 SES : $\beta=.16, p < .01, \text{Persisting} : \beta=.21, p < .01$)。

| 非標準化係数 変数名 | 収入 | | 学歴 | | 仕事満足度 | |
|----------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | Step2 | Step4 | Step2 | Step4 | Step2 | Step4 |
| 目的変数①②③ | 2.041 ** | 2.055 ** | 2.421 ** | 2.359 ** | 3.021 ** | 3.022 ** |
| 年齢 | 0.008 | 0.008 | -0.013 + | -0.014 + | -0.004 | -0.005 |
| 幼少期SES | 0.231 * | 0.252 * | 0.243 ** | 0.210 * | 0.162 ** | 0.129 * |
| Shifting | -0.079 | -0.055 | -0.043 | -0.063 | 0.078 | 0.064 |
| Persisting | -0.138 | -0.142 | 0.177 | 0.171 | 0.217 ** | 0.207 ** |
| 幼少期SES*Shifting | | -0.111 | | -0.053 | | 0.075 |
| 幼少期SES*Persisting | | 0.069 | | 0.095 | | -0.063 |
| Shifting*Persisting | | -0.002 | | 0.050 | | -0.001 |
| 幼少期SES*Shifting*Persisting | | -0.031 | | 0.044 | | 0.037 |
| R ² | .017 | .018 | .033 ** | .038 ** | .089 ** | .093 ** |

考察

本研究の結果から、Shift-Persist Strategy が社会内変動を促すという予測は支持されなかった。また、仕事満足度においては、Persisting との主効果が認められたことから、「将来に対して希望を持ち続ける」という行動をとることが職場等の周囲への評価・認知において有効になると考えられる。